

迫真
HAKUSHIN

再起動・安倍政権 3

女性に懸ける



第2次安倍改造内閣の女性閣僚は戦後最多に並ぶ5人となった

「人数ありきではないが：」。首相の安倍晋三(59)は3日夕、内閣改造後の記者会見でこう前置きし、過去最多に並ぶ5人の女性閣僚に言及した。「十分に能力のあるメンバーだ。女性ならではの目線で新風を巻き起こしてもらいたい」

安倍は少子高齢化で労働人口が急減するなか、経済成長には女性の社会進出が欠かせないと訴えてきた。「隼(かい)より始めよ」と周囲を鼓舞し、方針は人事にも反映された。

経済産業相の小淵優子(40)は7日、東京電力福島第1原子力発電所を訪れた。「皆さんを支えている家族の皆さんにも感謝を伝えたい」。あいさつを聞いた現地幹部は「我々だけでなく家族への言葉もいただいた」と感激しきり。小淵が「お疲れさまです」と握手して回ると、作業員らの硬い表情が緩んだ。

経産相は原発再稼働を控える重要ポストで、小淵は少子化相に続き入閣は2度目。元首相、小淵恵三の次女として知名度が高く「将来の首相候補」とささやかれる。この母親でもあり、家庭と仕事の両立を促す社会へ

のメッセージになる。「たくさん勉強せなあかん」。総務相を任された高市早苗(53)はこぼす。党政調会長として政策決定にかかわったが、総務相は地方行政からIT(情報技術)まで専門的知識がいる。「女性枠での入閣はお断り」が持論だけに、成果を上げるため深夜まで資料に向き合う。

北朝鮮の日本人拉致事件に長く取り組んできた拉致問題相の山谷えり子(63)は10日、日本政府がジュネーブで開いたシンポジウムで早期解決への協力を各国に呼びかけた。経産相が専門の松島みどり(58)は初入閣で法相に就いた。「私の首相官邸での記者会見ビデオを部下に見せるように」と幹部に指示し、政治主導を意識する。

女性活躍相の有村治子(43)は行政改革や規制改革など閣内で最も多い7つの担当を兼務する。各部署の説明を入れ替わりで連日受け、10日も夕食をとらないまま内閣府の部屋から議員宿舎に帰宅した。「いま何大臣だっけ、って感じ」と語る。まずは仕事の軸足をどう置いて優先課題の実現に取り組みかが課題となる。

「大した実績もないのに優遇されている」。女性の積極登用の裏で、入閣を逃した中堅・ベテラン議員にはやっかむ声も漏れる。新任の女性閣僚がどれだけ実績を残せるかは、改造内閣の評価を左右する。(敬称略)



女性駐日大使と首相が昼食会

「女性輝く社会に」

安倍晋三首相は10日、首相公邸に女性の駐日大使を招き昼食会を開いた

写真。米国のケネディ大使やインド、南アフリカ共和国などの大使14人が出席。首相は成長戦略の柱に掲げる女性の活躍推進について「女性が能力を発揮し輝く社会をつくる」と述べた。政府は12日から世界の女性リーダーを招いた国際会議を開く。出席した大使は会議への期待を示し女性政策について意見交換した。

が出席。首相は成長戦略の柱に掲げる女性の活躍推進について「女性が能力を発揮し輝く社会をつくる」と述べた。政府は12日から世界の女性リーダーを招いた国際会議を開く。出席した大使は会議への期待を示し女性政策について意見交換した。